

(2) 生物多様性基礎調査について

1) 既存資料調査

▶収集した既存資料一覧

	主な既存資料・情報名
市の資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『平成 23 年度日野市水生生物調査報告書』日野市 2012.3 ・『新・日野の動物ガイドブック』日野の自然を守る会 1994.3 ・『日野の昆虫ガイドブック』日野の自然を守る会 1982.3 ・『新・日野の植物ガイドブック』日野の自然を守る会 1985.3 ・『日野市植生図』日野市 1989 ・『日野市の植生』日野市・日野の自然を守る会 1976.3 ・『日野市の植生 2』日野市・日野の自然を守る会 1989 ・『日野市史 通史編 1 自然・原始・古代』日野市史編さん委員会 1988.3 ・『多摩川・浅川合流点自然環境保全計画』日野市 1993.3
都や国の資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『2 万 5 千分の 1 現存植生図』 ・『東京都田んぼのいきもの調査』（主に日野用水） ・『東京都保全地域における生物多様性保全のための自然環境調査委託（日野東光寺緑地保全地域）』東京都環境局自然環境部 2014.3 ・『東京都保全地域における生物多様性保全のための自然環境調査委託（東豊田緑地保全地域）』東京都環境局自然環境部 2013.3
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・『数え上げた浅川流域の野鳥 2－八王子・日野カワセミ会 二十年間の観察記録－』八王子・日野カワセミ会 2006.3 ・『私たちの日野市の野鳥』日本野鳥の会 2010.5 ・『日野の植物』播本正常 日野の自然を守る会 1973.7 ・『みんなで調べた日野市のタンポポと水草 1975／2002』日野の自然を守る会 2003.9 ・『緑の風は永遠に 倉沢里山を愛する会 10 年の歩み』倉沢里山を愛する会 2010.11 ・『水の郷・日野 用水路再生へのまなざし』法政大学大学院エコ地域デザイン研究所／日野の用水路再生共同研究プロジェクト 2007.2

2) フィールド調査の概要

▶調査の目的

- ・日野市域の生物多様性の特性を把握する
- ・地域戦略の目標設定に資する基礎情報を取得する

▶調査実施箇所選定の考え方

- ・主なビオトープタイプ 7 箇所程度を抽出
- ・日野市の自然特性に応じて実施箇所を検討
- ・保全活動が進んでいる環境（効果の評価、活動推進）
- ・劣化が進んでいる環境（手入れの不足、外来生物による影響等を把握する）
- ・生きもの情報が不足している所（既存の情報が充実している所は既存資料を活用）
- ・市民参加で継続的に環境の変化をモニタリングできる所
- ・水生生物(底生動物、魚類)は市の調査資料を活用

▶調査項目・数量

調査項目	調査時期	調査方法
植物	春季、夏季、秋季	任意踏査
鳥類	春季（繁殖）、秋季（渡り）、冬季	定点観察、任意踏査（目視、鳴声） ※調査地によってラインセンサス法
哺乳類 両生・爬虫類	春季、秋季	任意踏査（目視、フィールドサイン、鳴声） 場所によって自動撮影カメラ
昆虫類	春季、夏季、秋季	任意踏査 （見つけ捕り、スウィーピング、目視など）

▶調査実施箇所

調査実施箇所	自然特性	選定の着眼点	地域戦略策定における調査結果反映の方向性
①真堂が谷戸 ②黒川清流公園	自然度高い緑地 丘陵/崖線/湧水	・ 公民協働で保全されている所 ・ 手入れの必要な所	・ 保全活動の充実 ・ 新たな活動拠点検討 ・ 担い手、後継者の育成
③倉沢地区	農地	・ 昔ながらの農環境が育む生きものの現状	・ 生物多様性に支えられた農環境の保全 ・ 農業振興、ブランド化
④多摩川河川敷	河川	・ 重要な河川環境 ・ 外来生物の現状	・ 重要な河川環境の保全 ・ 外来生物対策 ・ 体験、活動の場、機会
⑤よそう森公園 ⑥向島用水親水路	用水路	・ 用水が育む水辺の生きものの現状 ・ 日野市らしい水辺景観	・ 用水路の重要性 ・ 価値の再評価
⑦多摩平団地	その他	・ まちなかの身近な緑	・ 身近にできる生物多様性の保全 ・ 主体間連携の可能性など

▶調査箇所の位置

